

世界の民話のおもしろさをしようかいしよう
木かげにしろり (朝せん半島)

めあて

「木かげにしろり」のおもしろさを考えよう。

この段の文は、あらかじめ紙に書いておき、貼るだけにします。

ある頁の目的です。

それから一月ほどたった夕方

木かげはきつちり
門までのびていた。

・門の前でねっころがっていた。
・木かげはまちがなくなわしたたちが買ったものでございます。」

また一月ほどたった夕方

木かげはくつきり
中庭までのびていた。

・中庭で三人がねっころがっていた。
・木かげはまちがなくなわしたたちが買ったものでございます。」

秋風がふきはじめて

・地主の家では、「先ぞ様のくようをする」「お祭り
夕方になると

そのうち板の間ま
までのびてきた。

一人がしろり
二人がしろり
三人がしろり

中庭いっぱい
しろりん しろりん

「ちこそつの上まで
のびてきた。

・おどりはじめた
・ちこそつを全部平らげた。

地主のようす

「木かげはわしのものじゃ。入り
たければ、木かげを買い取つてか
ら入れ。」

・だまって家の中に入って行った。

・だまって家の中に入って行った。

ワークシートには木かげの絵がありますが、ここでは、言葉に着目させるため絵は入れていません。実態に応じて、絵を入れてもいいでしょう。

「とんでもないものを売つて
ました」
・頭をかかえてそのまま地べたに
くたりにこんでしまった。

「ちこそつを絵にかいてそなえた。

【4 / 9 時間目 指導略案】 使用するワークシート… 紹介カード (木かげにしろり) 活動のねらい

登場人物の状況の変化を木かげの伸びと関係付けて考え、民話のおもしろさを考えることができるようにする。

1 前時で学習したことを振り返りながら通読する。

時間の経過を表す言葉や木かげの伸びを確認しながら読ませる。

2 登場人物の関係を読み取る。

登場人物（おひやくしよつたち、地主）の行動や言葉を色分けして線を引く。
線を引いた部分をワークシートに簡潔に書き出す。
木かげの伸びと百姓の行動、それに伴う地主の行動について発表する。

黒板に時間の経過や木かげの伸びを掲示し、児童の発言を順序立てて板書しながら、話の流れと登場人物の状況の変化が確認できるようにする。

3 「木かげにしろり」のおもしろさについて考える。

（発問）「ここが『木かげにしろり』のおもしろさだ。」という部分を考えてみましょう。

ワークシートに自分が考えたおもしろさを書く。

小グループまたはペアで、自分が考えたおもしろさを紹介し合う。

おもしろさを発言する時に、その理由についても述べさせるようにする。

おもしろさを全体の中で発表する。

おひやくしよつたちのちえや地主の立場の変化、くりかえし表現のおもしろさなど、違った視点からの意見や同じ視点でも違う感じ方をした意見を取り上げるようにする。

【評価】 百姓たちの状況の変化を木かげののびと関係付けてとらえ、民話のおもしろさを自分なりに考えることができる。

4 本時を振り返り、次時について知る。

登場人物の行動や会話と場面を関係付けながら読むと、登場人物の関係やその変化がよく分かることを押さえる。